

非行防止キャンペーン 生徒会が参加

大仙警察署、大仙地区少年保護育成委員会大曲支部の方々で行った非行防止キャンペーンの様子がこのほど「秋田民報」に紹介されました。今後もさまざまな活動に参加していきます。

修英高校生ら呼びかけ

非行防止キャンペーンでクリアファイル配布

学校法人杉澤学園(伊藤成年理事長)秋田修英高等学校(猿橋田修英高等学校)地区少年保護育成委員会大曲支部と連携し、



クリアファイルを手にする伊藤理事長と石直さん



クリアファイルを手渡す佐藤代表



大曲駅前で行非行防止を呼びかける

「おおまがりのはなび」をモチーフにした、インターネットトラブル防止を呼びかける標語を作成した。同支部(金森宏悦支部長)と青少年育成大仙市民会議大曲地域会議(佐藤久美子代表)はこのほど、同標語入りのクリアファイル700枚を製作し、同校に贈呈。佐藤代表と同支部の伊勢さんが8月22日に同校を訪れ、生徒会会長の石直遼真さん(3年)と副会長の門間虹輔さん(同)にクリアファイルを手渡した。同標語は昨年、大仙警察署がインターネットトラブル防止対策の一環として、同校生徒に「おおまがりのはなび」をモチーフにした標語を募集したのが始まり。91点の応募作品の中から、同校生徒会役員が中心となって、同支部や同署員らと9作品を選び出した。石直さんは昨年の標語選考会から関わったメンバー。同年代の視点から、広く生徒に訴えかける作品を選んだ。クリアファイルには、インターネットの正しい利用法や個人情報保護の大切さ、ネットリテラシー等を訴える標語が並び、スマホを手にする高校生と火花のイラストが描かれている。

同ファイルについて佐藤代表は「高校生のイラストは市内の高校の制服をイメージしたもの。マジックファイアの作りになっており、中に紙などを挟むと生徒のイラストと標語が、紙を抜くと生徒

の背後に『大曲の火花』が打ち上がって見えるデザインになっている。有効に使ってもらえれば」と話した。同校生徒会の生徒5人と教職員、同委員、同会員、同署員など計17人は8月25日朝、JR大曲駅前登校する高校生に同ファイル500枚を配布する、非行防止キャンペーンを



登校中の生徒に手渡し

伊勢さんは「標語を目にすることで少しでも意識が変われば嬉しい。一人ひとりの意識が少しでも変われば、状況も変わる。修英高校の生徒さん自ら考えて作った標語。他の生徒達にとっても身近に感じられると思う」と述べた。

実施。裏・面バイトに注意喚起するチラシも合わせて手渡した。石直さんは「インターネットを使う時は、人の嫌がることはやらないよう注意している。標語の中では『もう二度と消せないからね』その言葉』というフレーズが好き。どれか一つでも心に留めてもらえれば」と話した。